

下記大会に参加した際に、日本協会審判審査員の森山先生や他県の審判員との交流の中で多くのお話を伺えたので、情報提供させていただきます。ご一読いただければ幸いです。

2012. 05・12 内海秀昭

## レフェリーレポート



### 【参加大会】

○九州学生リーグ春季大会・・・参加日:平成24年4月29日(日)、30日(月・祝)

○九州一般・女子クラブ選手権大会・・・平成24年5月4日(金)～6日(日)

### 【審判会議、その他での反省】

- ・ チームの特色(カラー)を見定めて、その力が発揮できるよう裁く。ウォームアップの観察などは大事。
- ・ レフェリーは死角をなくしてコート全体を管理できるよう。メモなどでペアが同時に目を切ることがないよう。
- ・ レフェリーの仕事の目的は、試合でプレーヤーの力を発揮させること。  
大切な場面つまらい違反による退場を回避させるため、試合の序盤にこそきちんと基準を示すべき。イエローカードを出すことばかりがコンタクト、コミュニケーションの方法ではない。笛を強く吹くことで、選手に対するインフォメーションともなる。
- ・ 警告、直接退場とすべき事象は明確に区別すべき。一貫した判定を。
- ・ 明らかな得点チャンスとは何か。すべてがエリア内防御か？
- ・ ディフェンスの評価をキチンとする。ディフェンスがいる場所にオフenseが割り込んできた場合は、先にディフェンスが位置を正しくとっていればチャージングなどの反則を適切に判断すべき。
- ・ いらぬジェスチャーが多い。『笛→方向指示→必要に応じてジェスチャー』を落ち着いて行えば足りる。競技規則にないジェスチャーは必要ない。
- ・ ゴールエリアライン際の接触プレーを正しく判断する。シュートを打った際に接触があったから7mスローを自動的に判定するのは危険。ディフェンスの位置取りは？ポストがフリーになる直前のプレーは
- ・ アドバンテージルールを正しく理解する。発展性のないプレーは直ちにフリースローを判定すべき。
- ・ 罰則の適用(カードの掲示)に時間をかけすぎ。個人で2枚目なのかどうかは、早く処理できるように準備してほしい。
- ・ 顔面へのアタックを見逃した部分がある。相手に危険を及ぼす行為は即座に罰則を適用

すべき。

- ・ カットしたボールをゴールエリアに向けて行った。GK への場合は相手ボールでは？
- ・ 相手に相対して丁寧に対応。転んでいる選手に対してカードの掲示などは威圧感しか与えない。
- ・ 前半の終盤にも注意をする場面がある。基準を示したならば、その後は罰則を適用するのでは。『単なる反則 ～ 罰則となる反則』の間のいわゆるグレーゾーンの取扱い。

### 【西地区 B 級審査会】

上記審査会を兼ねていた九州一般・女子クラブ選手権大会での感想を少し。

●筆記試験・・・問題集をやりこむことでボーダー(20/25問)を超えることは可能だが、何よりもルールを知る(競技規則を読み込む)ことができたことが収穫だった。反面、これまでいかにルールを知らずに競技していたのかがわかる。

●実技審査・・・福岡県協会 島村審判員とのペアで臨んだ実技審査だったが、試合に臨むにあたっての目標は、

- ・両チームのスピード感を活かした試合展開
- ・危険なプレー(荒れた展開)に至らないよう、早い段階での罰則適用
- ・安易にディフェンスファウルとしない、7mTとしない。どちらが有利な状況なのかを見極める。

ことなどを掲げた。

互いにイメージが共有できたこともあり、役割分担もある程度はつきりできた。反則基準の差も大きくなかったと感じている。罰則の適用をスムーズに行えなかった部分もあったが、大きなトラブルもなく無事終了した。

### 【感想】

B 級審査会の受験生が九州各県から集まったが、受験生には若い(20歳代)審判員も多くみられ、各県協会の審判員の各年齢層の厚みを感じた。

県内においても審判員の不足が懸念となっているが、上級審判員を今後受験される方は少しでも早い時期に受験して、他県との交流を深めていただきたい。

今大会では、他県の審判員の持つ高い意識(向上心、競技に対する想い)を共有できたことは、とても有意義な体験でした。